

確かなまなびと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価書】**

堺市立津久野幼稚園
園長 上岡 万利子

令和6年度 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の安全・安心を基盤とし、全職員の共通理解のもと、幼児に知・徳・体のバランスのとれた力を育み、楽しい幼稚園をつくる。 ・幼児が遊びや生活を通し、生涯にわたって主体的に生きていく力の基礎を養う。 ・学力や生きる力につながる、非認知的能力を育む。 <p>【研究テーマ】「やってみよう！」心動かし主体的に活動する子どもをめざして ～幼児理解と環境づくり～</p>
-------------------	--

まなびの現状	こころ・からだの現状
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの体験活動や地域社会との積極的な関わりにより、学びの土台となる意欲が育っている子どももいれば、愛着形成に課題があり安心して過ごせない子どもや多様な支援を要する子どももいる。子どもの実態に合わせてカリキュラムを常に見直し、どの子どもも安心できる環境づくりを園全体で進めていく。 ・個に応じた支援の工夫や、子どもの自立や自己肯定感につながる親子の関わりでの啓発も含め、研究実践園としてインクルーシブ保育を推進し、子どもが主体的に活動する力を育んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な支援を要する子どもの割合が増加していること、個人差が大きいことをふまえ、支援計画を作成し関係機関や早期支援のシステムを生かして、個の支援を行いながら集団づくりにつなげていく。 ・自発活動において積極的に体を動かすことで基礎体力は身につけている。しかし、体のバランス感覚や手先の巧緻性に課題の見られる子どももいるので、多様な保育活動を通し、楽しいと感じながら能力を伸ばせるように保育を行っている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	遊びの創造	身近な自然や人に興味をもち、意欲的に遊べるようにする。	●様々な体験活動や心が動く体験や遊びを通して主体性を育み、確かな学びにつなげる。	保護者の75%以上が肯定的評価	保護者アンケート 保育観察	年度末	◎ 年間計画に沿って、主体性を育めるよう、子どもの興味関心から遊びを実現できるような環境を整えている。子ども一人ひとりの姿を見取り、その子の思いやペースに合わせた遊びの環境づくりを行うことで、自ら遊びをつくり出し楽しむ子どもの姿がみられる。	◎	子どもたちが楽しく自ら考え行動している様子が見えた。遊びの種類が豊富で素晴らしい。運動会では一人ひとりの得意な取組がされ、「つくって遊ぼう」では各年齢に応じて遊び込める環境づくりが工夫されていた。子どもが主体的に取り組んでいることが伝わってくる。
			子どもの実態に応じたどの子どもも安心して遊べる環境づくりを行う。	学びとのつながりを、定期的に園全体で評価する。	カリキュラム 保育観察		◎	◎	
	保育力	教師の保育実践力の向上をめざし、個に応じた支援に努める。	個々の発達状況に合わせて養護・教育の観点を意識した支援を行い、インクルーシブ保育を進める。 3歳から5歳までの非認知的能力の育ちを共有し、小学校教育への円滑な接続につなげる。 ●子どもの実態に応じた細やかな見取りを共有しながら環境のあり方を研修する。	全職員が研究保育を行い、園全体で成果と課題を共有する。	研究保育 保育観察	年度末	◎ ○ ◎	◎ ○ ◎	園内研修が充実し、職員集団の保育力の向上につながっている。また、子どもの意欲を引き出すような職員の働きかけや保育の工夫を感じる。研修を通して教職員同士がお互いの理解に努め、チームワークを深めている。
豊かな心・健やかな体	自己の発達	いろいろな人とふれあい、より良い人間関係を育む。	意図した異年齢活動を通し、お互いを知り、多様性を育む。こども園や小学校、地域の方々との直接的や間接的な交流をとおして、人と関わる力を育む。	保護者の75%以上が肯定的評価	保護者アンケート 保育観察	年度末	◎ こども園や小学校、地域の方々との交流の場をつくり、多様な経験を積み重ねている。人と関わり合う中での育ちとして、互いに刺激を受けて相手の思いを察しようとする姿がみられる。	◎	年間を通して異年齢活動を行う中で、子どもたちは相手を思いやる気持ちや温かい心の育ちがみられた。地域の方々も園、小学校との交流等を行い、様々な経験を豊かな心で育っている。園全体で子どもの姿を共有し、子どもへの声かけや支援に反映させることができた。達成感や任される喜び、認められる心地よさを子どもが実感することにより、安心して自分の思いや考えを伝え合える集団づくりを行うことができた。
			●個別の支援をしながら、互いを認め合える集団づくりを行う。				○	◎	
	体づくり	健康・安全に対する意欲を高め、健康な体をつくる。	毎月の避難訓練や安全指導を通して、「自分の命は自分で守る」意識を育てる。 基本的生活習慣の定着に向けて個に応じた支援を行う。 ●遊びを通して体を動かす楽しさを感じさせ、多様な動きができるような体づくりを行う。	保護者の75%以上が肯定的評価	保護者アンケート 実態把握	年度末	◎ ○ ◎	◎ ○ ◎	園運営として子どもたちの人数が少ないが、その分きめ細やかな指導・教育ができていと思う。園だけでなく、保護者にも保健だより等を通して取組等を知らせ、連携しながら健康・安全意識を高めている。園庭での遊びを中心に体づくりに努めている。
子育て支援	家庭・地域との連携	預かり保育や親育ちの場・未就園児招待等を活用して、子育て支援センター的役割を果たす。	●子育て支援の一環として、預かり保育活用を促す。未就園児招待や園庭開放の実施やHP等での情報発信を行う。 教育相談を実施するとともに、関係諸機関や地域人材と連携し、親がともに育つ場を設定する。	保護者の75%以上が肯定的評価	保護者アンケート 実施状況	年度末	◎ 預かり保育では降園時に子どもの育ちを保護者と共有し、日々の子育て支援を行っている。未就園児招待をPTAと共に積極的に実施し、園によりやHP等で情報発信できている。 保護者の個別相談や寄り添い、関係諸機関とも連携して情報提供や共有をすることで、保護者の安心感につながっている。	◎ ○	預かり保育では日々の子どもの育ちを保護者と共有し子育て支援を行なった。また、未就園児招待「きらきら・ばんだ組」をPTAと共に実施し、参加した保護者の子育ての悩みや悩みを共有して支援し、親子で楽しむ時間を提供できた。HP等で情報発信することもできた。園の全職員が保護者に寄り添い情報共有を行いながら、連携して子育て支援に繋げることができた。
									◎

園長より 日々の保育の様子や様々な人との関わり・経験で育つ子どもたちの姿を報告・発信し、保護者と共有できたことが肯定的な評価につながったと考える。また、研究実践園として、教職員全員で一人ひとりの子どもと集団の発達を細やかに見取る幼児理解に努め、子どもが自ら気づき考え行動し、主体的に活動・遊びに向かう環境づくりや支援のあり方について研究し、保育の充実を図ることができた。日々の振り返りを全職員で共有し次に活かすことを大切にして、繰り返し続けてきたことが成果として出ている。今後も子ども一人ひとりに寄り添いながら、より充実した園生活を送れるよう取り組んでいきたい。また異年齢・地域・校種間との交流、未就園児招待など、保護者の方や地域の方々にもご協力いただきながら充実させていきたい。そして、子どもたちが生き生きと遊ぶ中で様々な学びのある公立幼稚園として、質の高い幼児教育を研究し発信していきたいと考える。	学校関係者評価者から 子どもの主体的な活動こそが発達に大きな影響を与えているものだと思う。本園の教育はその方針に基づき、職員間の風通しの良さを生かしながら、子どもたちの主体性を大切に、研究実践園として地域の幼稚園としての役割を十分に果たしていると思われる。これからもそれぞれの子ども個性となる長所を伸ばしていただければと思う。また、さまざまな行事を参観したが、教職員間の連携が良く取れていた。園内研修によって、職員が自身の長所を生かし、お互いを補い合うような仕組みができていたように思われる。 今後も子育て支援の分野で、本園が求められる役割は益々強まるものと思われる。
---	---